

第69回

HIROSHIMA ENERGY SUPPLY CO.,LTD



●事業内容

液化石油ガス(LPG)のシリンダー充填及び販売

●HIROSHIMA ENERGY SUPPLY CO.,LTD

Extension Dong Van I IP, Duy Tien Dist., Hanam Pro.

●日本本社

広島県竹原市港町三丁目1番5号

●ホームページ

<http://hiroshima-energysupply.com/> (ベトナム)

<http://www.shiraiship.com/> (日本)

今回は、広島県竹原市に本社を置き、液化ガス(LPG)運搬船の貸し渡し、船舶管理などを手掛ける白井汽船株式会社の吉田豊社長にお話を伺ってきました。

白井汽船は、2013年11月に北部のハナム省Dong Van I工業団地拡張内に100%独資のHIROSHIMA ENERGY SUPPLY CO.,LTDを設立し、日系企業の工場や一般家庭向けにLPガスの販売をしています。また、ハナム省の投資促進の一環として、ハナム省人民委員会内に設置された「ジャパンデスク」を担当しており、日系企業の誘致や相談窓口となっている他、社会貢献活動等、様々な分野で活動されています。

一御社の業務内容を教えてください。

日本では、1973年から液化ガス(LPG)運搬船などの貸し渡し、船舶管理を主として、11種類のガスの国内及び、海外輸送を行ってきました。その他、発電所に入港する船舶の代理店事業や塩を独自の技法で固めた縁起物の企画・製造・販売等の事業も行っています。

ベトナムでは、LPガスの製造・販売を主としており、外資企業を中心とした工場への供給や代理店を通じて一般家庭向けへの販売も行っています。

一ベトナム進出の経緯を教えてください。

2000年、株式会社第二海援隊の浅井隆氏とともに東南アジア諸国を視察する機会があり、初めてベトナム(ホーチミン市)を訪れました。初めてのベトナムの印象は、これから経済発展が進む1960年代頃の日本のようでした。この視察をきっかけにベトナムに関心を持つようになり、2003年~2004年、日本で役目を終えた中古船をベトナム北部のハイフォン市に送り、LPGタンクを再活用してガス運搬船を建造出来ないか調査に入りました。また、広島県のNPO法人「広島ベトナム協会」の役員として、ベトナム人留学生の日本側の受け入れ、ベトナム南部で枯葉剤の被害者に対するの援助、孤児院や性的

虐待を受けた少女達の施設支援などを行う等、ベトナムとの関わりが深くなっていきました。そして、日本でのLPG運搬船事業での経験を活かし、ベトナムで工場や一般家庭向けにLPガスを供給する会社を立ち上げることを決意し、2013年11月15日に広島県庁において広島県の湯崎知事及びハナム省ロック共産党書記長立会いの下、ハナム省ズン人民委員会委員長(知事)立会いの下、投資ライセンスを取得することができました。

一ハナム省を進出先に選んだのはなぜでしょうか?

2011年、東日本大震災の起きた年の9月にハナム省が広島県で投資セミナーを開催しました。その際、ベトナム政府関連機関から東日本大震災の義援金を頂き、広島ベトナム協会を代表してお礼の挨拶をしたことがきっかけです。その投資セミナーで、ハナム省がハノイ市から通える距離ということやホン川(紅河)が隣接しており、そこには約1,000トンまでの小型船舶が入港することができることを知りました。長年培ってきたLPG運搬船事業での経験を活かすことで行き、ハナム省にガスを使う産業が誘致出来るのではないかと思い、進出先に決めました。また、ハナム省は日系企業の誘致に非常に積極的なことや人

民委員会のズン委員長(現、共産党書記長)とは、広島県副知事を紹介したり、広島ガスの工場視察したりするなど公私に渡り交流を深めてきたことも重要な理由でした。

一ハナム省と提携されているとお聞きしました。

ベトナムは「電気・ガス・水道」のインフラの中でガスを使ったインフラ整備が一番遅れています。ガスは、正しい使い方をすれば非常に便利な燃料であり、環境にやさしい燃料です。我々とハナム省ズン党書記は、日本と同等の品質の良いガスを供給することによって、ガスを使う関連産業を誘致していくと同時に、ガスの安心・安全についての啓蒙活動を行っていくことで合意しました。まずは、ベトナム人の一般家庭向けに正しいガスの使い方のセミナーを開催し女性郡宣伝隊(100名以上)が省内への宣伝を開始しています。また、2013年にハナム省の人民委員会の中に日系企業の誘致活動や相談窓口となる「ジャパンデスク」の広島県の代表に任務されました。

一2003年頃、ベトナムでガス運搬船を建造しようと思ったのはなぜでしょうか?

ベトナムは、米、コーヒー豆、胡椒等では世界有数の輸出国として農業大国となってお



り、今後、農業を活かすと同時に工業化が期待されていますが、ベトナムの国土は、南北に約2000キロと長いことやベトナムの海や河川は水深が浅いため大型船舶での輸送には困難であり、中小型運搬船の需要が上がってくると考えていました。さらに、ベトナムは天然資源を有していることに加え、ズンクワット製油所、ギソン製油所、ロンソン製油所などの製油所が今後増えていくことで中小型運搬船の需要が高くなると考えました。そこで、今後需要が高まる中小型運搬船を現地で製造することによって、ベトナム人技術者の育成に貢献が出来ればという思いから現地で製造を決意しました。

ベトナムのガス事情についてはいかがですか。

現在、日本で一般的に使われている家庭用のガスコンロは、鍋底の温度を察知し約250度で自動消火させる「調理油過熱防止センサー」、自動的にガスを止める「立ち消えセン



サー」、消し忘れを防ぐ「消し忘れ自動消火センサー」が標準装備され、ガス供給側のメーターには「マイコンメーター」という24時間ガスの使用状況を見守っている安全装置が備わっています。一方、ベトナムではこのような安全設備は普及していませんので家庭や工場ではガスによる事故が頻発しています。また、ガスタンクをバイクにくくり付けて、配達している光景を良く見かけますが、あれは非常に危険ですし、工場でもガス配管の老朽化が原因の事故が発生しています。ベトナムは日本と同様にガスを輸入・精製し、一般家庭や工場へ供給されているのですが、現在のベトナムで一般的に消費されているガスは、ガスコンロで火を点けると分かるようにオレンジ色の火が多量に混ざっており、不純物やブチレンが含まれています。これらの不純物が含まれているガスはその特性により、煤(すす)が多く排出され吹き出し口がすすで詰まる原因となったり、ガス管が詰まるなど故障の原因にもなります。さらに、ガスを使用する熱処理加工機等では、品質の悪いガスを使うと安定した温度管理が出来ない炎の強弱の調整etcため、精度の高い製品を作ることが難しくなります。

今後の展開について。

まずは、日本品質の安心・安全なガスを各家庭や工場等へお届けしていきたいと考えています。また、日本は、浅い河川でも奥地まで運搬できる技術を有しています。ベトナムでも河口付近で大型船からLPガスを中小型船に移し、FSO(浮体式河川ガス貯蔵積出し設備)まで運び、そこから内陸の各LPガス充填所等へ運ぶことにより、一般道の渋滞に巻き込まれることが少なくなり、物流コストの削減に繋がると考えています。日本で長年培ってきたLPG運搬船事業での

経験を活かし、ベトナムの社会に貢献できればとも考えています。

それと、我々の拠点があるハナム省の孤児院への援助等、社会貢献活動を続けていきたいと思っています。会社は営利目的であり、「利益は明日への継続費用」として重要ですが、私は先進国で生まれた者にとって、新興国を支援することは義務と言っても過言ではないと考えています。私は、ただ単純にビジネスで利益を出すだけではなく、大好きなベトナムの方々に安全・安心にガスを通じて家庭や職場で笑顔が創られていく事が一番の喜びです。

社会貢献活動はどんな事をされているのでしょうか？

毎月ハナム省の孤児院を訪問し、寄付や誕生日会や歌や折り紙等で日本文化交流などを行っています。11月22日(日)には、パナソニックさんと三菱東京UFJさんの協力の下、子供達27人をハノイ市にあるパナソニック「リスーピア」と三菱東京UFJハノイ支店へ招待しました。リスーピアでは、子供達が初めて見る理科や最新の映像技術にとっても興味・関心を寄せ、銀行のオフィス見学ツアーでは、初めて銀行の内部を見学し、想像以上に楽しんでいる様子でした。見学終了後、子供達に「将来、銀行員になりたいですか？」と質問を投げかけたところ多くの子供達が手を挙げていました。また、商船大学ではLPG輸送のアドバイザーや救難救助センターへの人道支援協力協定を結び、官民との協力を行っています。今後もこのような社会貢献活動を継続し、子供達や人々に笑顔と夢と希望を与え続けていきたいと思っています。

ありがとうございます。

